

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100384		
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		
事業所名	グループホームはるひ苑		
所在地	山口市仁保中郷2321-2		
自己評価作成日	令和2年6月6日	評価結果市町受理日	令和2年10月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの蔓延により、全国に緊急事態宣言が發布され、いまだかつて経験したことのないような行動制限が課せられ、普段の生活が一変しました。三密を避けるため、毎日の買い物、就業支援のための外出、また万一の感染を防ぐための家族との面会の自粛など入居者のなげない楽しみをとりやめなくてはならない辛さを経験しました。しかし、入居者の方々は淡々とされており、春の山菜が届けば、ワイワイ言いながら、土筆の袴とりや蕨や筍の皮むきなど昔ながらの手作業をこなされ、ブランターの苺を頬張り、自然の中でゆったりと過ごしていただいています。また、地域に毎月「はるひだより」を発行し、情報発信は続けています。入居者と一緒に買物には出れていませんが、地元のお米、地元の野菜など旬の食材を元に入居者と調理をしています。たまに、職員の釣りに上げた魚を捌き、刺身、吸い物にと堪能しています。コロナが収まり心置きなく外出できる日が待たれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の思いや意向(やりたいこと)をしっかりと把握されて、利用者のやりたいことは、経験があり、得意なことでもあることを見極められ、魚を捌いたり、包丁を研ぐ、保存食づくりに利用者が意気揚々と取り組まれているなど、毎日の暮らしの中で利用者の「やりたいことができる」ように支援しておられます。事業所では毎月、地域や家族宛にきめ細かな情報提供をしておられます。地域には、地域版の「事業所便り」を毎月、全戸(900戸)に配布され、この事業所便りを通して認知症や事業所への理解が深まり、利用者に対して、買物時の言葉かけや野菜栽培への助言、無断外出時の自然な形での見守りがあるなど、地域住民との日常的な交流につながっています。家族宛には、毎月事業所便りや返信付介護計画書、受診票等の送付や電話等、きめ細かな情報提供をされ、家族からの返信は介護計画やサービス向上に役立てておられます。今回、新型コロナウイルス感染症防止の為、面会の自粛等がある中で、きめ細かな情報の提供によって、家族に安心していただけるよう取り組んでおられます。運営推進会議では家族や地域からの参加者と活発な意見交換による双方向的な会議を展開をされて、そこでの意見をサービス向上に活かしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎日の朝礼で入居者と職員と一緒に理念を唱和し、理念を共有し実践できるように努力している。また、理念を基に事業計画を作成している。</p>	<p>地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示し、職員は毎日の朝礼時に利用者と一緒に唱和して確認している。月1回のミーティングやカンファレンス時には理念について話し合い、介護計画作成時には利用者の個性を大切にして、ゆったりと楽しく自由に暮らせる計画になっているかを話し合い、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の桜まつりや幼・小中学校の運動会、文化祭などに招待されていたが、今年はコロナの関係でどうなるか心配している。近所の道の駅や野菜市で地元の野菜を購入している。</p>	<p>自治会に加入している。事業所の紹介や利用者の活動、家庭での認知症の介護方法等を掲載した「事業所だより」を毎月作成して、地域全戸(900件)にポスティングや新聞の折り込みで配布している。近隣や道の駅、郵便局には、利用者が職員と一緒に持参している。利用者は幼稚園と小学校の合同運動会や農業祭に職員と一緒に参加している。ボランティア(楽器演奏、日本舞踊、利用者と一緒に歌を歌う)で来訪の人や餅つきの手伝いで来訪の地元の中学生との交流を楽しんでいる。利用者は近くにある道の駅や野菜市で買物時には地域の人と挨拶を交わし、近所から旬の野菜や花の差し入れがあり、事業所の畑で野菜栽培時には垣根越しに近所の人から助言をもらっているなど、地域の一員として日常的に交流している。利用者の無断外出時には顔なじみになっている周辺の住民から連絡があり、自然な形で見守りをしてもらっている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域に向けて、毎月「はるひだより」を発行し、苑の様子や認知症についての説明や介護について分りやすく情報発信している。また、認知症介護相談窓口として、気軽な相談を呼び掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の書類を全員に配り、回収をしてまとめている。評価を活かして、感染症とくに今回は新型コロナウイルスについてミーティングで何度も研修を行った。	管理者は、月1回のミーティング時に評価の意義を説明し、職員に自己評価をするための書類を配布している。職員が全員記録後に管理者がまとめている。職員は自己評価を通して日々のケアやサービス内容を振り返り、見直しや新たな取組みについて話し合っている。新型コロナウイルス感染症防止のため、多くの行事や外出、行動の制限等について話し合い、研修を実施している。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、ヒヤリハットや事故の事例を基に転倒防止や歩行介助、観察の要点等の研修を実施し、地域の協力を得ての防災訓練の実施や非常食の備蓄等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回、地域の方、市役所の高齢福祉課、ご家族の方の出席を得て開催している。苑の取組や地域の情報、防災に関しての話し合いをしている。コロナの影響で4月は開催されていない。	会議は2カ月に1回、「身体拘束委員会」と合わせて開催し(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為1回中止)、利用者の状況や介護の状況、行事報告、行事予定、ヒヤリハット、事故報告、身体拘束防止等の報告後に話し合いをしている。利用者の状況やサービスの実際が分かり易いようにパワーポイントを活用して報告している。参加者からは、事業所からの報告を基に、日常の暮らしの中でのリハビリテーションについてや離設時の対応、身体拘束防止、新型コロナウイルス感染症拡大防止、地域行事の紹介等、双方向的な会議を展開して、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の取組など運営推進会議にて説明している。毎回市の職員さんは出席して下さい、質問や意見等して下さい。また、こちらの疑問にも答えて下さっている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向いて情報交換を行い、運営上の疑義について相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換や困難事例の相談を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で身体拘束防止委員会を開催している。その中で取り上げた課題を職員の研修としている。玄関は20時に施錠し翌朝8時に開錠しており、日中は施錠していない。</p>	<p>職員は「身体拘束排除マニュアル」を基にした研修や「言葉、態度による虐待、拘束チェックリスト」で学ぶとともに、2ヶ月に1回実施している「身体拘束廃止委員会」からの情報を通して学び、身体拘束・虐待の内容や弊害について正しく理解している。主治医と話し合い、ドラッグロックの防止に努めている。スピーチロックについては管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。離設時には利用者と顔なじみになっている周辺の人の協力を得て、自然な見守りができている。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
8		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修をして虐待防止に努めている。</p>		
9		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社内研修を予定している</p>		
10		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、丁寧な説明をして入居者や家族に納得して頂き、要望を聞いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や家族総会で意見や要望を聞くようにしているが、今年はコロナのために書面決議の際、書面にて意見、要望を聞く形にした。また、毎月ケアプラン、モニタリング、はるひだよりを送り、返信により意見を聞くようにして、運営に反映するようにしている。	相談、苦情の受付体制や公的機関の相談窓口を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明をしている。毎月、家族宛に事業所だよりや返信付介護計画書、モニタリング、受診票を送付して、家族が意見が言いやすいように工夫をしている。家族からの意見や要望は、面会時や運営推進会議参加時、年1回の家族会時に聞いている他、電話や手紙、毎月の返信で聞いている。意見や要望は「家族等関係者連絡記録」に記録して職員間で共有している。家族からの返信には、毎月のきめ細かな介護計画の送付や電話での利用者の状態の報告があり、安心だとあり、今後とも家族にきめ細やかな情報を提供して、意見を運営に反映することとしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のモニタリング、ミーティングの際、意見や提案を遠慮なく出して話し合うようにしている。	管理者は、月1回のミーティング時や毎日の朝礼時、内部研修時、カンファレンス時、モニタリング時、年1回の個人面談で職員からの意見や要望を聞いている他、日常業務の中で意見や提案があればいつでもメモを机上に置いてもらうようにしている。新人職員には、研修受講後に記録する「研修報告書」に、心配事やわからないこと等を自由に記録してもらい、その内容についてコメントを加えて返し、新人職員が安心して勤務できるように支援している。代表者は年1回、個人面談の機会を設けて、意見や提案、要望を聞いている。職員からは感染症防止対策(マニュアルの作成、非常時の簡易食器の購入)についてやケーキがつかれる炊飯器と食器乾燥機の購入、自身の介護技術の向上についての意見や提案があり、それらを運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給取得の推進、休憩の取り方など働きやすい環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各資格取得の支援をしている。研修にも参加予定だったが残念ながらコロナで中止になった。資格支援研修として毎月簡単な問題をしてもらい提出してもらっている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は実践者研修に2名が受講している。受講後は研修報告をし、いつでも閲覧できるようにして全員が共有できるようにしている。法人研修は、年1回、外部講師を招いて実施(もっとワクワクする会社へ)し、全員が受講している。内部研修は、年間計画を立て毎月、管理者や職員が講師となって、認知症についてや理念、人格の尊重とプライバシーの確保、新型コロナウイルス感染症拡大防止の留意点と方法、感染伝播予防の徹底、身体拘束・虐待防止、接遇、コミュニケーション、看取りのケアなどを実施している。新人研修は、法人研修(理念、接遇)の後、日常の業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて、介護の知識や技術を学べるように支援している。介護に関する資格取得のために研修への参加やプレテストを実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの事業所と就業支援などを通じて交流している。(コロナで今は休止) 他事業所の運営推進会議に出席している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の今までの生活様式など基礎的な情報をスタッフ間で共有し、本人の要望をよく聞いて信頼を得ることができるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時、家族の思いや要望に耳を傾け、よく話合うようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化による不安の軽減に努め、要望などプランに反映できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリとして、本人の出来る事を職員と一緒に調理、掃除、洗濯物たたみ、干しをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたご家族とコミュニケーションを取っていたが、コロナのため面会自粛をお願いしていた。毎月希望や意見を伺っている。家族とは、電話で今の様子を伝えたり、本人と会話して頂いたりしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある名所やドライブはコロナのためできなかった。終息したら出かけたいと思っている。近くを時々散歩はしていた。	家族の面会や親戚の人、近所の人、教え子の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から馴染みの美容院の利用や馴染みの商店、道の駅、野菜市での買物、自宅付近に出かけている。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活なのでトラブルも発生するが、共通の楽しみや、協働の作業などをして頂き、調和を保てるように支援している。当事業所の入居者は歌が好きな方が多くよく唄っておられる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の中には、はるひだよりを楽しみに待って下さる方もおられる。年賀状や暑中見舞いのご挨拶はさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式での情報をもとに本人の思いや希望を推察し支援できるようにしている。日頃の会話の中からもやりたいことが得られることもあるのでスタッフ間で共有できるようにしている。	入居時のセンター方式のシート(基本情報や生活史、これまでの暮らし方等)を活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉(何をしたいのか、何処に行きたいか、何を食べたいかなど)や表情、行動を生活記録に記録して思いや意向の把握に努めている。これまでの経験を活かして、百歳の利用者がハマチを捌いたり、94歳の利用者の指導で梅のラッキョ酢漬けをつくったり、筍の粕漬、玉ねぎの収穫と保存のひも結びなど、利用者一人ひとりの思いや「やりたいこと」の把握に努め、支援に取り組んでいる。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染の暮らし方を家族に聞いたり、本人と話したりして理解するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中でその人らしくを心がけているが、業務に追われ単調になることも多い。今後の課題である。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで課題、プランの見直しを検討している。主治医、看護師等の意見を参考にしている。また、毎月送っているプランについて家族から意見の返送がある場合は反映している。	利用者を担当している職員と計画作成担当者が中心になって月1回、カンファレンスを行い、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、家族宛に送付したモニタリング等の返信を反映すると共に、朝礼時にその日のケアを話し合う中で、利用者の状況や意向に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の記入はプランに沿ったものや、気づきを記入しているが、排泄の記録、水分補給の記録となることが多く細かい様子が抜けてしまうことがある。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの個性や特性や本人の希望などに対応できるように努力しているが、十分に応えられているとは言えない。特にコロナの関係で制限されることも多かった。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仁保地区の方は優しく親切な方が多くよく声もかけてくださるが、コロナで散歩も控えていた時期もあり、今後楽しみいたと思う。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の受診のおり、主治医に入居者の近況や気になることを相談している。適切な医療を受けられている。	本人や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療があり、休日、夜間等、緊急時には24時間オンコール体制となっている。他科受診は事業所が支援している。歯科は必要に応じて訪問診療がある。薬剤師が2週間に1回、薬を分包して来訪し、職員は服薬指導を受けている。受診結果は「業務日誌」や「連絡ノート」に記録して職員間で共有し、家族には電話報告や月1回受診票を送付している。事業所の看護師が週2回、来訪して利用者の健康管理を行い、状態について適切な助言を受けたり、医師への連絡等、医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や、特変、気になることは逐一看護師に報告し、助言を得ている。インフルエンザやコロナの感染症についての研修の助言を得ている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院される時は、情報交換しお互いの理解を深め、早期に退院できるように主治医とも連携し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化された時の意向を聞き、当事業所で出来ることを説明している。早い段階での主治医、看護師、家族との話し合いを持ちケアの方針を決めて支援している。	重度化や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から主治医や家族、職員と話し合い、本人や家族の気持ちに添う支援ができるよう取り組んでいる。看取りを希望の場合は同意書や要望書ももらっている。看取りに関する内部研修を実施し、今年度は1例の看取りをしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時の備えとして、日々の事故防止に努め発生時の初期対応を申し合わせている。また、ひやりハット、事故報告で職員の周知徹底している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書に状況や対応、今後の課題や改善点を記録し、職員全員に回覧して周知している。月1回のミーティング時に再度話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。事故防止に備えて感染症マニュアル(ノロウイルス、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症)の作成やキッドの整備、携帯電話の利用、新型コロナウイルス感染症拡大防止についての内部研修を実施し、転倒防止や歩行介助の実践研修を実施している。	・全ての職員が実践力を身に付けるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のための避難訓練を年2回している。また、防火訓練、消火訓練、通報訓練も消防署の協力のもとおこなっている	年2回、消防署の協力を得て、昼間の火災、地震、水害を想定した通報訓練や避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認を利用者と一緒に行っている。運営推進会議の中で、訓練への参加の呼びかけや災害時の協力を依頼しているが、協力体制を築くまでには至っていない。災害に備えて、2階建ての研修棟を建設し、水害時の避難場所として活用することにしている。停電に備えてかまどのご飯の炊き方を実践し、水や食料品の備蓄をしている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や尊厳の確保が保たれるように配慮している。出勤時、退勤時には一人一人に挨拶をしてまわり「挨拶に始まり挨拶に終わる」を実践している。	職員は法人の入職時研修(接遇)や内部研修(接遇、コミュニケーション、人格の尊重とプライバシー確保)で学び、利用者一人ひとりに尊敬の念を持ち、呼称は名前を使い、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。事業所では、「挨拶に始まって挨拶に終わる」をモットーとしており、職員は毎日、出勤時と退勤時には必ず、一人ひとりの利用者に挨拶をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いの汲み取り不足に陥らないようによくコミュニケーションをとるように努力しているが困難なこともある。自己決定が難しい入居者が意思表示されると嬉しく感じる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いが何より優先という思いで日々ケアしているが、それぞれの入居者に均等に接することが難しい場合もある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほぼ2ヶ月に一度美容院でカットしている。その時に美容師さんに希望を伝えておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を出し合い、職員と一緒に調理している。コロナで一緒に買物に出かけられないが、近くの道の駅やふれあい市で旬の野菜を買っている。各自自分の食器は片づけをされている。	食事は利用者の好みや意見を聞いて、毎日の献立を立て、近くの商店や道の駅での食材選び、事業所の畑で取れた旬の野菜や近所からの差し入れの野菜を使って、三食とも事業所でつくっている。毎食後、「お食事日誌」を付けて献立づくりや食材選びに活用している。利用者は、米を研ぐ、食材を洗う、野菜を切る、皮剥き、下ごしらえ、魚を捌く、味見をする、いなり寿司をつくる、食器を選ぶ、盛り付ける、テーブルを拭く、お茶汲み、下膳、自分の食器を洗う、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者とは同じテーブルについて食材の話をしながらいっしょに食べている。おやつづくり(サンドイッチ、おむすび、おはぎ、ずんだ餅、プリン、パンプリン、スポンジケーキ、ヨーグルト)や戸外のテラスでのお茶、ホットプレートを利用した昼食、誕生日食(好きなもの、スポンジケーキにトッピング)、季節の行事食(おせち料理、節句の寿司、恵方巻、母の日御膳、父の日のアンパンづくり、ソーメン、スイカ割り、土用の鰻、彼岸のおはぎ、餅つき)、季節の保存食づくり(梅のラッキョ酢漬け、筍の粕漬け、大根葉の漬物、茄子と胡瓜の麴付け、お茶作り、玉ねぎ切りと紐結び)、晩酌、家族との夕食など、食事を楽しむことのできる支援を多くしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事は、野菜を中心にして昔から食されていた料理方法を取り入れている。また、10時15時には必ず、水分補給をしてその他適宜に水分補給している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。歯科の治療が必要な方には、訪問歯科治療をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して誘導している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。パットや紙オムツを使用する際には、根拠をはっきりさせて家族にも説明をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し、便秘の予防をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は2日に一回を基本として行っている。体調や意思により、清拭となることもある。	入浴は14時から17時までの間、利用者が希望する時間に入浴できる。順番や湯加減、好みの石鹸の使用など、利用者の希望に合わせて、ゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、順番や時間を変えたり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、リフト浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は起きて頂き、夜寝て頂く生活パターンが保てるように支援している。たまに夜眠れない時は夜勤が居間でお茶をしたりお話ししたりしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員と入居者が毎回一緒に名前などの薬の読み上げをして、確認している。時としてセットもれ、服薬忘れなどが発生する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で他の事業所における就業支援をしているが、コロナで休止中。苑の中で役割分担し、得意なことで本領を発揮してもらっている。	献立づくり、食材選び、食事の下ごしらえ、包丁を研ぐ、米を研ぐ、調理（魚を捌く、煮る、焼く、揚げる、混ぜる、味付け）、食器選び、盛り付け、後片付け、食器洗い、献立書き、保存食づくり（梅のラッキョ酢漬け、筍の粕漬、白菜漬け、大根葉漬け）、新茶づくり、畑に苗植え（玉ねぎ、ゴーヤ、じゃが芋、胡瓜、ナス）、畑に水やり、野菜の収穫、玉ねぎ切りとひも結び、掃除（モップ掛け）、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、花を生ける、花瓶の水を換える、古切手の整理、新聞や雑誌、本を読む、テレビやDVDの鑑賞、ラジオを聞く、歌を歌う、習字、散歩、ラジオ体操、足踏み体操、口腔体操、季節行事（節分、雛祭り、七夕、スイカ割り、盆踊り、夏越の祓、花火大会、母の日、父の日、敬老の日、誕生日会、餅つき、クリスマス会）、家族との外出等、利用者一人ひとりが活躍できる場面を多く作り、気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出できなかった。終息したら散歩、買物、家族との外出を楽しみにしている。	周辺の散歩や馴染みの商店や道の駅、野菜市での買物、馴染みの美容院に日常的に出かけている。畑に苗植え、草取り、水かけ、季節の花見（梅、桜、紫陽花、紅葉）、ドライブ（山口市内、自宅周辺）、梅の花見と甘酒を飲み、香山公園、神社に「夏越の祓」に出かけている他、家族の協力を得て、一時帰宅、外泊等、利用者の希望に添って出かけられるように支援している。感染症（インフルエンザ）予防の為、11月から外出を控えており、加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、3月から6月までさらに外出を控え、家族の面会も自粛してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はない。紛失の恐れがあり、お預かりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時折、ハガキを出したいと言われる方には、そのように支援しているが、出されない方が殆どである。家族からの電話は取り次いでいる。自分から家族や知人に電話をしたいと言われる方は取り次いでいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内はどこでも出入り自由になっている。入居者は思いのままに過ごされている。	食堂兼居間は広く、大きな窓からの自然光で明るい。窓からは事業所の畑や地域の田園、高速道路に続く緑の斜面が見えて、季節の移り変わりを感じることができる。室内には季節の花を飾り、大きな机やソファ、畳の長椅子、テレビなどがゆったりと配置してある。利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。壁面には利用者の写真やカレンダー、時計が飾ってある。温度や湿度、換気、清潔に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれる方もおられるし、仲良い同士で畳の上で横になられて過ごされる方もおられる。テレビを観られる方もおられ自分の居心地のよいところで過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時使い慣れた家具を持ち込まれたり、位牌や写真を持ち込まれている方もおられる。本人、家族が工夫されている。	箆笥、衣装ケース、衣桁、ハンガーラック、小机、椅子、テレビ、ラジオ、ラジカセ、鏡台、時計、本、アルバム、整容道具、寝具、衣類、ぬいぐるみ、造花等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、絵や家族写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりの設置やトイレの貼り紙、居室にはご本人や家族の書かれた名前を表札としてかけていて、ご自分で居室に戻れる工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームはるひ苑

作成日: 令和 2 年 6 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		歩行が自立されている方の見守り、トイレ介助、離設、入居者間でのトラブル、また、ターミナル対応の方など、お一人お一人の対応が求められている。スタッフの協力と、申し送りの徹底、情報の共有を図っている。	認知症と身体介護の適切な対応が、全ての職員ができるようになる。知識と技術の向上を目指す。	疑問や対応に迷った時はすぐに先輩や上司に報告、相談をする。月1回のミーティングでその事例について検討をする。	
2		災害時の非常事態の際は、側の研修棟の2階への避難も考える。	頻繁におこる自然災害への注視と、火災など身近に起こりうる災害に対応できるように日頃から落ち着いて行動できるようにする。	避難訓練に参加して、火災時の電話通報の対応の仕方などを習得をする。水、簡易の食糧の消費期限の確認をする。	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。